

「しゃらく」印象的な響きでブランド化 〜ネーミングにも仕事にもこだわりを〜

「生きがい」とサポートセンター神戸西NEXT」運営を通じたNPO支援

「若手がNPO業界に入る条件は、食べていける」といふことと「しゃらく」代表理事の小倉譲さんは語る。「そのためには、NPOにもネーム戦略やマネージメントが必要。将来への不安がなくなれば、若者がNPO活動やソーシャルビジネスに取り組み、活動の裾野が広がっていく」という信念のもと、「しゃらく」は「生きがいサポートセンター神戸西NEXT」を運営し、「ソーシャルビジネスに真剣に取り組んでいる人」の支援に取り組んでいる。

具体的には、NPOの法人設立・運営の支援として各種相談に応じたり、講座を開催するほか、無料職業紹介を実施している。

旅はリハビリになる!

「しゃらく」が担うソーシャルビ

ジネス支援は、高齢者の旅支援という「しゃらく」自体のソーシャルビジネスの取り組みに裏打ちされている。

もともと「NPO法人しゃらく」を立ち上げるきっかけは祖父の介護でしたと小倉さんは振り返る。毎年旅行に行くほど旅好きだった祖父が要介護認定を受けた後、一緒に旅をしようとして対応できる会社がなく悔しい思いをした。そこ



旅の支援が一生の思い出に

で、下見もせずに自分で徳島の神社につれて行き、長い階段を祖父に上らせてしまった。ところが、一段

一段手すりにしがみつきながら上がり終えた祖父は、神主さんと一時間ほど立ち話さえた。旅はリハビリになると感じた小倉さんは、会社を立ち上げる意志を固めた。小倉さんは、その時の感情を「魂が震えた」と表現する。

お客様に合った旅を
手配する

「しゃらく旅倶楽部」

くも膜下出血で倒れ、寝たきりになった母親を結婚式に連れてきてほしいという依頼があった。「血のつながった親族は母だけ、母への手紙を聞いてほしい」という娘さんの思いを叶えたくて依頼を受けた。

結婚式当日、祝福の言葉や来式者へのお礼を述べたいのに言えない母親。そのせいか娘の晴れ姿を

直視しようとしていなかった。いよいよ、母への手紙を読むときがきて「お母さんへ…」と始めるが、新婦はもうすでに泣いている。手紙を読む娘に母親はそれとなく、でも確かに目を向けていた。

新郎新婦退場後、母親を新婦のところに連れて行った。娘さんは感慨無量になり「お母さん、来てくれてありがとう」と言っ、大きな声で泣き出した。その時、右半身マヒの母親の左目からは涙が流れていた。「僕の歴史に残るくらい感動的なシーンでした」と小倉さんは語る。

将来的には「実家が里親をしていた関係で児童福祉にも携わっていきたく」と、まだまだ大きな目標を掲げる小倉さん。若くエネルギーのある活動にこれからも期待したい。

特定非営利活動法人しゃらく
☎078-735-0163(しゃらく)
☎078-731-2251(Next)
FAX078-735-0164
ホームページ
<http://www.123kobe.com>